

〈特別寄稿〉

留学生と地域との交流

ーグローバル人材としての留学生教育と就職支援ー

長谷川 恵一

はじめに

皆さん、こんにちは。ただ今、ご紹介いただきましたように、昨日の夜ベトナムのハノイを出て夜の便で今朝、関空に着いたところです。何か事故があったら心配だなと思いつつ、すべて時間通りに来ることができましたので、ほっとしています。皆さんに今日、どの程度お役に立てるお話ができるかどうか分かりませんが、私が具体的に活動している内容、大阪と高知の違いが大きくあると思うのですが、皆さん方に何らかのお役に立てれば嬉しいなと思っています。

今日は皆さんのところに、まず資料を提供させていただいております。その中に、エール学園の専門学校と日本語学校のパンフレットがございます。高知大学にもエール学園から学生がお二人ほど来られているようなのですが、日本語学校から大学・大学院へ進学する進学系が、だいたい8割ぐらい、2割ぐらいが専門学校への就職系で、エール学園の場合は運営されています。現在、1,255名の留学生が、エール学園で学んでいます。

それともう一つ、『エール学園50年史』という冊子を入れております。ちょうどエール学園が今年で50年目になります。いろいろな変遷を経て、現在に至っているのですが、エール学園は全員が留学生という非常に特殊な学園になっております。その歴史的な経緯をこのパンフレットで示しておりますので、あとで見ただけたらと思います。他に3冊の学園冊子を入れておりますので、あとでご覧になっておいてください。

それでは、講演に入りたいと思います。今日は時間が充分あるようですので、しっかりと皆さんにお伝えしていきたいと思います。

まずタイトルなのですが、大きなタイトルが「留学生と地域との交流」となっています。エール学園の場合はあとからお話しますが、地域との交流が非常に盛んな学園ですので、その具体的な内容を今日はかなりお話することになると思います。それから、「グローバル人材としての留学生教育と就職支援」ということで、非常にそこに特色がありますので、このようなタイトルにさせていただきました。先ほど、お聞きしておりますと、高知大学

の学生さんは、高知で就職されるということもありますし、関西の方へ行かれる卒業生の方もあるとお聞きました。それで、少しその辺のことも含めてお話をさせていただきます。

生産人口の減少時代

まず、全体的な日本の状況をお話します。日本は今、人口減少時代に入りました。「生産年齢人口」というのがあるのですが、2030年には、日本は1,300万人の生産人口が減って、GDPも下降していくということが現在、想定されていまして、政府はすごく慌て

ている状態です。そういう意味で、皆さん方が日本に来ていただくということは、日本政府にとっては大歓迎です。皆さん方がおそらく学習したあと、日本で活躍していくことを政府の方は大変、期待をしています。

対策としては、「女性の活躍」ということで、日本はまだまだ女性が正社員として働いている数が少ない状況ですので、この人口減少時代にまず女性が増え、もっと活躍していただこうということで、政府は女性の活躍推進というのを政策に掲げて、いろいろな形で政策を進めています。

もう一つは、「高齢者の活用」です。日本はだいたい、男性で78歳、女性で87歳ぐらいの平均寿命になっていますので、すごく元気なお年寄りがたくさん出てきました。しかし、日本は定年が60歳ですので、現在、65歳までは法律的には働くという政策を進めています。しかし、日本は70歳になってもまだ元気なお年寄りがたくさんいますので、今、政府はもっともっとお年寄りに働いてもらって、人口減少の対策を打とうとしています。

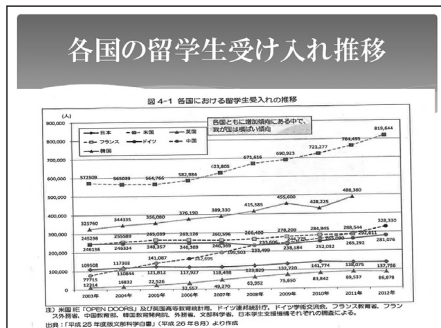
それからもう一つ、「外国人の活用」ということで、生産年齢人口が減ることをこの三つの対策で乗り越えていきたいというのが、日本政府の考え方なのです。そういう意味で、留学生がグローバル人材として活躍してほしいというのは、現在、政府の大方針になっています。もし、これらの政策をきちんとし、効果が上げられないということになると、日本はどんどん沈没していく、そんな状況になっていくと言われています。手を打って効果が上がらないと、日本は現在、GDPは世界第3位になっていますが、3位どころか、10位、20位、30位と下がっていくだろうと言われています。

生産人口の減少時代

- ・対策を打たなければ2030年には、1300万人生産人口が減り、GDPも下降していく
- ・対策とは女性の活躍、高齢者の活用、外国人の活用となる。
- ・これらのすべての対策を打ったとしても、GDPの減少は避けられそうにないが、手を打たないともっと状況が悪くなる

各国の留学生受け入れ推移

これは、「各国の留学生の受け入れ推移」です。一番上にある高い数字が、実は米国です。米国が一番、留学生を多く受け入れています。そのあと、これはイギリスですね。イギリスがその次です。あと、だいたい横ばいなのですが、フランス、ドイツ、中国といったところがこの辺のところでひしめき合っています。その次、ここが日本になります。日本のデータは古いデータですので、このような数字になっていますが、後ほどこの数字をお示ししたいと思います。要するに、現在、留学生は全世界でどんどん増えていっている状況にあります。ですから、今後は留学生は世界でどんどん活躍していく状況になるだろうと想定しています。



日本に滞在する外国人

「日本に滞在する外国人」は、2014年で212万人なのですが、2016年の統計で約230万人になっています。それから、皆さんのように留学ビザを取っている留学生は、2016年の入国管理局のデータでは27万7,000人になっています。この数字が一番正しい数字だ

うと思います。別の官庁から出されている数字もいろいろあるのですが、これは入国管理局のもので、これが正しい数字だろうと思っています。世間一般でいろいろなデータが出されるのですが、この数字はあまり皆さんが見かけない数字になるだろうと思っています。これが正確な数字だということを頭に入れておいてください。

それから、技能実習ビザですが、日本は単純労働者を受け入れないというのを原則にしています。しかし、それでは日本も、先ほど言ったように人口減少時代になりますので、どうしても働き手が不足している状況です。そこで、単純労働では受け入れませんが、日本の技術移転というコンセプトであれば受け入れようということで、この技能実習ビザという制度をつくって

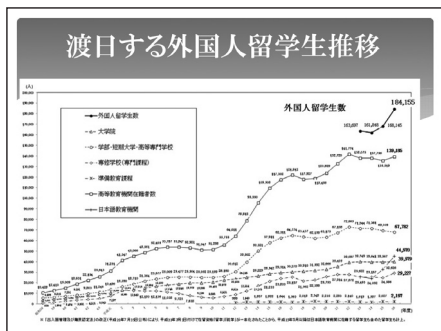
日本に滞在する外国人

- ・日本の外国人人口は212万人(2014年)
- ・留学ビザは27.7万人(2016年入国管理局)
- ・技能実習ビザの単純労働者の来日は16万人、今後技能実習ビザを減らして、働き手が不足する業界に絞って外国人の導入を検討

ます。この技能実習ビザというのは、日本に来て、3年間技術というよりも技能を学んで、母国に帰って技術をその母国で広げていくという制度なのです。ですから、単純労働ではあるのですが、3年間の期限付きの労働者を受け入れる制度になっていますので、日本では働き手が不足する業界にとっては貴重な労働者ということが言えるのではないかと思います。

渡日する外国人留学生推移

皆さんがよく見かける JASSO のデータが一番よく出ている数字なのですが、これは、JASSO という団体がこのようなデータをつくっているのです。JASSO という団体は「学生支援機構」といって、文科省の外郭団体になります。そこが、「渡日する外国人留学生推移」として18万4,155人のデータを出しているのですが、これが



今から3年ぐらい前のデータです。先ほど入国管理局の数字は、27万7,000人と言いましたが、JASSOの2016年の数字は24万7,000人になっているという意味です。これは、JASSOという機関ですが、3年前の法務省のデータは21万人になっていました。ですから、3万人ぐらいデータの差があるのですが、基本的には入国管理局の27万7,000人が、現在、留学生が渡日してきている学生数です。

日本では、外国人留学生がこのようにずっと少しずつ増えてきて、2016年には27万7,000人になるところまで来ました。この数字は、政策的に2003年に外国人留学生が10万人になっている数字があるのですが、この10万人というのは、これも政策的に1983年に中曽根首相のときに「留学生10万人計画」をつくりました。そのために、ここから一気に国が政策として取り上げたものです。ですから、外国人留学生が増えてきて、目標の3年ぐらを残して10万人になりました。その後、10万人ぐら이의政策が続いて横ばいになっていたのですが、その次に2008年、福田首相のときに「留学生30万人計画」をつくって、このように推移しているのです。今から約5年ぐらい前、皆さんも日本語学校を通過してきている学生が多いと思うのですが、株式会社系の日本語学校はそのときには「留学生」と言わずに「就学生」と言っていました。こ

の5年ぐらい前に「就学生」という呼び名を変えて、「留学生」に全部統一しました。そのために、今回、留学生の推移というデータの中に、従来の株式会社系の日本語学校の「就学生」の数字が入ってきたのです。これは一つの政策なのですが、「就学生」という言葉でなくて、「留学生」という言葉になったものですから、一気にこの数字になったとお考えください。

渡日する留学生が急増(2016年)

渡日する留学生が急増しています。先ほど言いましたように、2003年に、「留学生10万人計画」を達成しまして、次に「留学生30万人計画」をつくって、2020年为目标達成年となっています。2016年に入国管理局では27万7,000人と言っていますので、ほぼ「留学生30万人計画」は達成されるだろうと考えてもいいのではないかと思います。

それで、留学生は、中国の留学生が最も多いわけですが、今はベトナム、ネパールの学生さんが一気に増えてきています。台湾も少しずつ増えてはありますが、中国は横ばい、韓国は少しずつ減少しているという推移になっております。2016年の入国管理局のデータでは、先ほど言いましたように、27万7,000人の留学生が来ていますが、日本学生支援機構というJASSOのデータでは24万人というデータになっています。このデータも、入国管理局はだいたい11月ぐらいに出てくるデータですが、JASSOは5月に出しているデータですので、少し時期の差もございます。

渡日留学生が急増(2016年)

- ・日本政府は中曽根首相時代2003年に留学生10万人計画を達成、2020年に30万人の留学生を渡日させる計画
- ・留学生は中国の学生が最も多く、次いでベトナム、ネパール、台湾、韓国の順になっており、その中でもベトナム留学生が急増している。
- ・2016年の入国管理局のデータでは27.7万人だが、日本学生支援機構のデータでは24万人が留学生が渡日してる

渡日する留学生の日本の現状

「渡日する留学生の日本の現状」ということで、増えているところと減っているところをお示ししたのですが、ベトナム、中国、韓国の学生さんのデータが示されています。この濃いブルーが中国の学生さんです。これが2012年、1万8,090人で、2016年が1万8,488人ですので、ほぼ横ばいという数字です。

渡日する留学生の日本の現状



それから、ベトナムの学生さんですが、2012年は2,039名でした。それがなんと2016年には1万6,781人という数字になっています。とてつもない増え方で8倍ぐらいになっていますね。すさまじい数字の増え方になっています。私も今、ベトナムから帰ってきたのですが、ベトナムの留学生が私どもの日本語学校でも非常に増えていますので、その対策の一環もあって、ベトナムへ行行ってまいりました。

ベトナム留学生が増えている理由

ベトナムの学生がなぜ増えているかという理由ですが、企業が中国に一気に進出したものの、現在、中国からベトナムの方に進出が移っていています。企業が移っていくと、現地で日系企業ができますのでベトナム人留学生は日本で就職しやすくなるという環境

ができていきます。企業のベトナム進出と渡日する留学生は連動しているのです。中国からの留学生も増えたときは一気に企業が中国に進出しました。そのため、留学生が一気に増えていきました。

また、ベトナムでは、生活と学費の支払いに皆さん、かなり苦しんでいます。ですから、5年ぐらい前はベトナムの学生さんは日本に留学するのに親戚中に借りまくって来たという状況でした。しかし、銀行が発達して教育ローンがベトナムでも実施されるようになってきましたので、一気に資金が借りられる状況になりました。おそらくそれも、ベトナムの留学生が増える理由の一つになっているのではないかと思います。

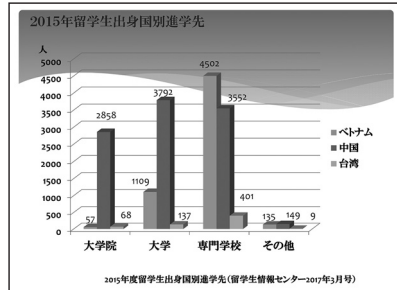
あともう一つ、書いても良かったのですが、やはりベトナムは親日国です。非常に日本ファンが多い国です。当校もベトナムの学生は多く受け入れていますが、非常に日本のメンタリティーに合う学生さんが多いなと感じています。ベトナムは、日本の製品等にシンパシーを感じているお国柄ですので、ベトナムに行くと、ホーチミンでも、ハノイでもほとんどが日本の車です。見かけるのは8割ぐらいは日本の車でしょ。日本の車は故障しないので、日本の製品に対しては尊敬の念をもっているということも、私はこの留学生が増えている背景にあるのではないかと感じています。

ベトナム留学生が増えている理由

- ・企業は中国からベトナムにシフトしている
- ・企業のベトナム進出と渡日する留学生は連動している
- ・ベトナムで教育ローンが始まり渡日しやすくなる

留学生出身国別進学先

それから、留学生の出身国別の進学先をデータとして見てみたいと思います。これは、2015年度の留学生情報センターのデータなのですが、まず、ベトナムの学生で見ますと、大学院には57名、大学は1,109名、専門学校が4,502名で、2015年に一気に専門学校に留学生が行き出したというデータです。中国の学生さんはこの濃いブルーですが、大学院が2,858人で、大学が3,792名、専門学校が3,552名という数字になっています。中国の学生さんはやはり大学中心で進学しているというデータです。台湾の学生さんは大分少ないのですが、大学院に68名、大学に137名、専門学校に401名です。台湾の学生さんは、比較的現地で大学を卒業している人が多く、むしろ日本の就職に興味がある人が多いので、このようなデータになっています。ここでも、ベトナムの学生さんの状況が大きく専門学校へ移っているという状況になっています。これには、いろいろな理由があるのですが、経費支弁の問題が大きいのではないかと思います。後ほどその理由も少し話してみたいと思います。



ベトナムの学生が専門学校に増えている理由

ベトナムの留学生が専門学校に増えている理由ですが、専門学校は2年制ですので、学費や生活費が安く済むという側面があります。それから、日本語レベルの面では、大学は日本語能力試験でN1かN2でないと入れませんが、専門学校の場合はN2かN3ぐらいのレベルで入っていくので、留学生にとっては入りやすさがあるのだと思います。ASEANの学生さんは、できるだけ手に職をつけたいという人たちも多いと思われるのですが、専門学校に留学生が増えていっている理由になっているとも思います。

エール学園は専門学校なのですが、日本語学校ももっていますので、日本語学校の学生さんを見ていますと、その前の年に比べて、6倍ぐらいの学生

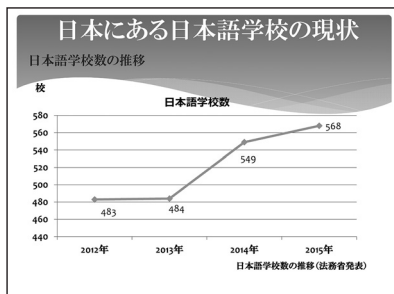
ベトナムの学生が専門学校に増えている理由

- ・専門学校は2年制が中心のため、学費や生活費が安く済む
- ・日本語レベルが大学は日能試でN1かN2、専門学校はN2かN3を要求するため専門学校が入りやすい
- ・アセアンの学生は手に職をつけたいと思っている

が一気に専門学校に行くようになりました。私もはそのパンフレットにありますように、ビジネス系だけの専門学校ですので、ほかにいろいろな分野、医療系の分野の専門学校もありますし、建築系の専門学校もあります。ファッション系の専門学校もありますので、それぞれの分野に進んでいっている状況でもあります。

日本にある日本語学校の現状

皆さんの中で多くの方が日本語学校を経由して来られていると思うのですが、先ほど申し上げましたように、8割の学生さんが日本語学校を経由して進学しています。大学院、大学、専門学校に進学していっている状況ですので、多くの方が日本語学校経由で来られています。そういう意味でいいますと、日本語学校の数が増えないと受け入れられませんので、このデータにありますように、2012年、2013年、2014年、2015年と日本語学校がずっと増えてきた状況になっており、おそらく2016年は600校ぐらいになっているのではないかと思います。



渡日する8割の留学生は日本語学校を経由して進学

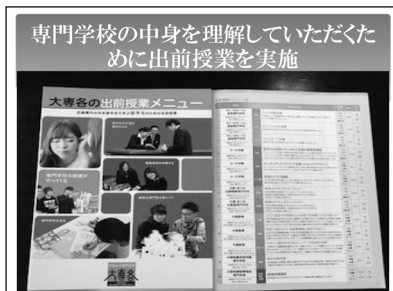
先ほど申し上げましたが、渡日する8割の留学生が日本語学校を経由して進学しています。実は、30年前に日本語学校に多かったのは、韓国の学生です。それから、20年前に急に中国の学生が増えました。現在はベトナムの学生が急増しています。今後、おそらくASEANのどこかの国の学生さんが急増するのではないかと考えていますので、現在、「留学生30万人計画」を政府が進めています、おそらく「留学生40万人、50万人計画」というものが政府から出されることになるのではないかと考えています。韓国、中国、ベトナムと推移してきましたので、おそらく今後、ASEANのどこかの国が、ベトナムのように急増する状況になってくるのではないかと考えています。

渡日する8割の留学生は日本語学校を経由して進学

- ・日本語学校に30年前は韓国の学生、20年前は中国の学生、今はベトナムの学生が急増している。次はアセアンのどこかの国が急増する
- ・専門学校に進学する留学生に教育の中身をよく理解したうえで進学させる
- ・そのため専門学校は日本語学校を訪問して、出前授業を行い留学生に教育の中身を理解してもらっている

専門学校の中身を理解していただくために出前授業を実施

専門学校に進学する学生に、教育の中身をよく理解してもらったうえで、進学させるということを徹底させるべきだと思います。留学生は、専門学校のことをあまりよく知らない人たちが多いのですが、ただ単に、「専門学校に来てください」というだけではなく、「専門学校の中身を皆さんによく知



てもらったうえで来てくださいね」というのが、専門学校の方の希望です。それで、実は「大阪府専修学校各種学校連合会(大専各)」、これは専門学校ばかりが集まった団体なのです。資料には入れていませんが、このような専門学校が日本語学校に出かけて行って、専門学校ではこのような内容を教育していますということを皆さんに知らせるために、「出前授業」を行っています。ですから、このような広報活動をしながら留学生集めをしているという状況があります。日本語学校は留学生を管理する力はあるのですが、専門学校は留学生が急に増えていますので、我々は、内容の中身をしっかり学生に伝えたいという動きを、専門学校の団体の活動として実施しています。そのため、このような冊子を配布し、出前授業をしています。

それから、専門学校は日本語学校を訪問して、出前授業を行って教育の中身を理解してもらうようにやっているのですが、それでもなかなか専門学校は留学生にとっては分かりにくい状況のようです。ですから、我々も繰り返しこのような活動を実施しております。これがパンフレットで、横に講座名がいくつか書いてあります。昨年で全部で90講座ぐらい実施をしました。いろいろな分野が専門学校の場合にはありますので、内容が本当に多岐にわたっております。もし皆さんが見たければ置いていきますので、あとでご覧になってください。

留学生の就職率は30%ほど

留学生の就職について話しますと、実は留学生の就職率は30%ほどなのです。これは全国の数字です。大学院、大学、専門学校の卒業生の就職率は30%です。留学生のうち就職を希望されるのが60数%なのですが、そういう意味で言うと、就職率30%は希望する人の半分以上しか就職できていないことになります。これは、僕は本当に恥ずかしい数字だなと思っています。

そういう意味では、留学生にせっかく日本に来ていただいて、夢破れて帰国するというのは、外交問題とも言えるのではないかと私は思っていますので、何としても、この30%という数字は変えるべきではないかと思っています。政府はそのことに気付き出しまして、去年の秋ですが、留学生の就職率を50%にしようと安倍首相が言い出しました。それぐらい皆さんに対する期待感も、別の意味であるという意味だと思うのです。日本政府が30%はだめだ、だから50%にするというのを政策として掲げ出したのも、これもある意味で特筆する内容ではないかと思っています。

実を言いますと、日本での就職は、ビザ関係の発給については、世界で一番就職しやすい環境にあるのです。ですから、本当はこの30%はおかしいのですが、入国管理局の政策を見ますと、世界で一番就職については緩やかな制度になっているのです。ですから、安倍首相もこれを倍増させたいという内容も分からないことではないと思うのですが、ではどうして就職率がこのように低くなっているのでしょうか。これは、私どもの感触ですが、企業のトップがまだまだ保守的で、外国人を雇うことに対して保守的な環境にあることに問題があると思います。これは私どもが現在、大阪で留学生に対する支援をずっと続けていますが、企業の社長さんは意外に保守的です。これが30%になっている大きな理由ではないかと思っています。

大専各の政策で企業側の外国人に対する保守性を打破するために

先ほど、「出前授業」についてお話ししましたが、大阪の専門学校180校で構成されている、大阪府専修学校各種学校連合会（大専各）という団体がございます。この大専各では、留学生の採用事例の紹介セミナーや専門学校と企業との交流会をして、専門学校にいる留学生に対する理解を深めてもらいたいということで、このような活動をしています。専門学校の留学生は、日本の企

留学生の就職率は30%ほど

- ・大学院・大学・専門学校の卒業生の就職率は30%
- ・留学生が夢破れて帰国するといずれ外交問題に発展
- ・制度として日本は世界の中でも就職しやすい環境にあるのだが、企業側の保守性が課題
- ・日本政府は留学生の就職率を50%にするという政策を打ち出す

大専各の政策で企業側の外国人に対する保守性を打破するために

- ・大阪の専門学校180校で構成されている大阪府専修学校各種学校連合会では、留学生の採用事例の紹介セミナーや専門学校と企業の交流会を開催
- ・専門学校魅力発信BOOKと専門学校留学生受け入れ情報カードという冊子を作って、留学生採用事例集や留学生が在籍する専門学校紹介している

業でもあまり受け入れてくれるところが少ないのですが、実は、日本人学生は、大学に比べて専門学校は10%ぐらい就職が良い状況にあります。専門学校は、就職をするための学校だとお考えいただいてもいいのかもしれませんが。

実は我々、専門学校で、『専門学校留学生受入情報カード』という冊子をつくっています。専門学校は、ネットで見ていただくと、留学生用の募集要項を載せてくれていないところが多いのです。おそらく留学生は困るだろうということで、大阪でつくりました。これは、留学生を募集するための、留学生用の募集要項なのですね。こういうものが専門学校の方でも十分準備されていないものですから、ある意味で専門学校に行きにくい環境もあるので、大阪府専修学校各種学校連合会では、留学生のための募集要項を冊子の形でつくっています。全国ではまだなくて、大阪がその先端を走っており、あと福岡と広島県の専門学校の団体に我々が協力して、このような冊子をつくってもらいましたが、全国ではまだまだ弱いところがあります。

企業の採用担当者と専門学校就職担当者との交流会

それから、大阪府専修学校各種学校連合会の話をしていきますと、先ほど申しましたように、企業の採用担当者と専門学校の就職担当者が交流しているイベントを開催しています。企業側にも理解していただくために、このような会合を開いて啓蒙活動をしています。これは大阪の専門学校が企画しています。



専門学校魅力発信 BOOK

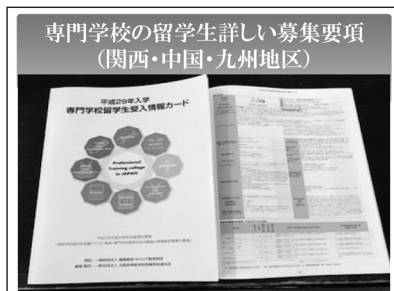
これが、『専門学校魅力発信 BOOK』で、専門学校の魅力を発信するために、こういう冊子をつくっているのです。内容は、専門学校を卒業した人たちがどういうところに就職しているのかという個人名をそれぞれ出して、就職先の内容を、専門学校からこのようなところに就職していますという事例集をつくって、これを配布しています。こ



れは、日本語学校にも配布しますし、企業にも配布しています。これは、専門学校の魅力として、留学生がこのような就職していますよという事例を見せたいがために、このような冊子をつくって広報をしているのです。

専門学校の留学生の詳しい募集要項

これが先ほど申しました『専門学校留学生受入情報カード』です。このように、留学生のための情報カードをつくっています。中身は、留学生用の項目、留学生にとっては得するような項目が書かれています。



大専各の政策でアセアンの優秀な学生を日本に

大阪府専修学校各種学校連合会の政策で、ASEAN の優秀な学生を日本に呼んできたいという政策を進めています。東アジアの優秀な学生は、だいたい米国や英国に進んでいます。しかし、ASEAN の優秀な学生は、今だと日本にやってきます。理由は、渡航費の安さと学費の安さにあるのだと思っています。それから先ほどもお話ししましたように、日本の商品に尊敬の念をもっているという親日国が ASEAN には多いので、今後 ASEAN の人たちがやってくるのだと思っています。

大専各の政策でアセアンの優秀な学生を日本に

- ・東アジアの優秀な学生は米国・英国へ
- ・アセアンの優秀な留学生は今だと渡日する
- ・理由は渡航費の安さと学費の安さ
- ・日本の商品に尊敬の念を持っている

大専各の政策で大阪・関西を優秀なベトナム学生で活性化

実は、大阪府専修学校各種学校連合会の政策で、関西を優秀なベトナムの学生で活性化しようという動きをするために、我々のこの大専各の団体の中に、留学生委員会をつくりまして、ベトナムの優秀な大学との提携を現在、

大専各の政策で大阪・関西を優秀なベトナム学生で活性化

- ・180校で構成されている大阪府専修学校各種学校連合会の団体の留学生委員会でベトナムの優秀な大学と提携を進めている
- ・ベトナムのファッション系のフューテック大学、ハノイ貿易大学、ホーチミン人文社会科学大学等々の優秀な大学生を多数大阪に呼び込み大阪を活性化させる

進めております。ベトナムのファッション系でヒューテック大学やビジネス系でハノイ貿易大学、ホーチミン人文社会科学大学という優秀な大学さんばかりです。また、大学生を多数、大阪に呼び込んで大阪を活性化させたいという意図で、ベトナムとの連携を現在、進めようとしています。

エール学園の留学生政策

これから少しエール学園のお話をしたいと思いますが、エール学園は現在、1,250名の全員が留学生の学校でございます。全員が留学生のため、留学生に合ったコース設計ができるという意味合いの特色があります。

エール学園の留学生政策ですが、先ほどお話しした全国の留学生の就職実績が30%であるので、母国からの信用を失う可能性があると思ひまして、エール学園では就職率100%という実績を現在、続けています。もう5年ぐらいつつと100%を続けているのですが、私はせっかく日本に来ていただいたのだから、絶対就職させたいという

思いで学校づくりをしています。その原因は、国際人材活用ネットワーク交流会で留学生と企業との交流会を実施しています。交流会には、他の大学の学生や専門学校の学生も参加をしています。私としては、このネットワーク交流会を公的なプラットフォームに育てたいと考えています。今だとベトナムの優秀な学生が渡日してくるので、ベトナムのトップのハノイ貿易大学との提携を進めています。

実は、今回ハノイ貿易大学で私に講演をしてほしいということで、講演のためにハノイ貿易大学へ行ってまいりました。いろいろな日本の企業さんやいろいろな方が来られて、講演されたのですが、学校としてはエール学園が講演のメンバーと呼ばれたわけです。

現在、実験的にハノイ貿易大学も慎重にやられていますので、学生を1名一昨年送ってこられました。この学生が非常に優秀だったものですから、1

エール学園の留学生政策

- エール学園は1250名全員が留学生が在籍
- 全員が留学生のため留学生に合ったコース設計ができる

エール学園の留学生政策

- ・全国の留学生の就職実績が30%のほどのため、母国から信用を失う可能性がある。そのためエール学園は就職率100%ほどの実績をつづけている
- ・その原因は国際人材活用ネットワーク交流会で留学生と企業の交流会を実施。交流会には他の大学の留学生や専門学校留学生も参加

エール学園の留学生政策

- 今だとベトナムの優秀な学生が渡日するのでベトナムのトップのハノイ貿易大学と提携
- 現在実験的に一人の優秀な学生を渡日させている
- 今後このスキームをアセアン全体に広げる予定(次は大阪商工会議所と組んでミャンマー)



年少して就職ができました。それで大変喜んでいただいて、今年の4月は7名の留学生をエール学園に送ってくださっています。ベトナムのハノイ貿易大学はトップ校なのですが、日本語と英語ができるものですから、我々にとっては就職させやすい学生さんが多いので、このようなトップ大学との提携を現在、進めているところです。実は、その内容を聞きつけて、大阪商工会議所がエールでやっているこのスキームを、ぜひミャンマーでやってみたいというお話がありまして、実は昨年11月、大阪商工会議所の会長とともにミャンマーに行って、二つの大学との提携を実施いたしました。これはハノイ貿易大学の学長とエール学園が提携しているときの写真です。

エール学園の就職コースの現状

エール学園の就職コースは、パンフレットに載っておりますが、国際ビジネス学科と国際コミュニケーション学科、日本語教育学科の三つがあります。日本語教育学科は、日本語学校と考えていただいても結構です。国際ビジネス学科は、国際ビジネスコースが2年制で、デュアルビジネスコースが1年制ですが、これは就職を100%保証するように最初から設計したコースでもあります。それから、国際コミュニケーション学科は、国際コミュニケーションコースとして2年制のコースがございます。日本語学科の日本語学校は、就職準備コースを設けております。就職関係で専門学校では日本語能力試験N2レベルでないと入ることができませんので、例えば、ベトナムの学生だとN4やN3レベルの方が多くいますので、この就職準備コースに入れて、就職準備をさせるというコースを設けております。

エール学園の就職コースの現状

- 国際ビジネス学科
 - 国際ビジネスコース2年制
 - デュアルビジネスコース1年制
- 国際コミュニケーション学科
 - 国際コミュニケーションコース2年制
- 日本語教育学科
 - 就職準備コース(半年～2年)

エール学園の就職系コースの特徴

エール学園の就職系のコースですが、その特色は先ほど申しあげましたように、1年間で就職を保証するコースですので、大学を卒業していることが条件であります。専門学校ですので、日本語能力試験 N2レベルでないと入ることはできません。

また、ASEAN の学生は現地のレベルでは、日本語能力試験 N2レベルがほとんどないために、N3レベルで入れるコースを日本語学校につくるとというのが先ほど言いました就職準備コースです。半年間で日本語のレベルを上げて、半年後にデュアルビジネスコースに入学させるというコース設計をしております。

エール学園の就職系コースの特徴

- デュアルビジネスコースは1年間で就職を保証する現地の大卒者。専門学校なのでN2が条件
- アセアンの学生は現地のレベルではN2はほとんどないため、N3で入れるコースを日本語学校につくる。それが就職準備コースで半年間の日本語のレベルを上げ、半年後にデュアルビジネスコースに入学

ハノイ貿易大学のプログラム

先ほど申しあげました、ハノイ貿易大学のプログラムなのですが、ハノイ貿易大学で先行的に実施されておまして、昨年、実験的にハノイ貿易大学の4年生の学生が送られてきました。3カ月の生活で日本語を学んだあと、4カ月目から就職準備の座学を受けて、

日本でハノイ貿易大学の卒論を書いて7月に卒業をしました。3回のインターンシップを行って、今年の3月に食品加工会社に就職をいたしました。昨年、学生の就職が成功したので、今年は7名の学生が来るようになっております。

ハノイ貿易大学のプログラム

- ベトナムのトップ大学であるハノイ貿易大学で先行的に実施
- 昨年実験的に貿易大学の4年生の女学生が送られてきた
- 3カ月の生活日本語を学んだあと4カ月目から就職準備の座学を受けた後日本で卒論を書き、7月に卒業して、3回のインターンシップを行い今年3月に食品加工会社に就職した
- 昨年の学生が成功したため今年7名の貿易大学の学生が渡日してきた

ベトナムから優秀な学生を呼べるチャンス

ベトナムから優秀な学生を呼べるチャンスだと私も考えまして、現在、専門学校の団体にもこの政策を進めているのですが、ベトナム政府自身も日本留学を推奨してくれております。ベトナムのハノイ貿易大学の事例のよう

ベトナムから優秀な学生を呼べるチャンス

- ベトナム政府自身も日本留学を推奨してくれている
- ベトナムの事例のように優秀な学生が渡日してくる
- ベトナムでは小学校で日本語教育が始まる

な優秀な学生が渡日してきます。ベトナムでは小学校でいよいよ日本語教育が始まるという環境が整ってまいりました。

エール学園のインターンシップ

これから、エール学園の特徴になると思いますが、留学生の100%就職を達成するために、3種類のインターンシップを実施しています。実は、ずっと就職率100%を続けていたのですが、去年だけ残念ながら1人だけ就職ができなかったというのが実態です。昨年は就職率97.5%で、あとはずっとこの4月も100%就職をすることができました。その原因は、このインターンシップにあるということこれからお話ししたいと思います。特に、地域との交流を増やすために、「社会貢献型」のインターンシップを多数実施しております。本日のテーマは「地域とともに」ですので、そのテーマに沿った話になっていくと思います。

エール学園の留学生政策

- 留学生の100%就職を達成するため、3種類のインターンシップを実施。
 - ・採用選考型インターンシップ
 - ・キャリアアップ型インターンシップ
 - ・社会貢献型インターンシップ
- 特に地域の人との交流を増やすため社会貢献型のインターンシップを多数実施

「社会貢献型」のインターンシップ事例

これは、「ごちそうマラソン」という企画がありまして、このマラソンのお手伝いをしているところです。水の補給のために留学生が準備して、走っている人にお渡しするというボランティアをしています。

これは、大阪でないと皆さんご存じないと思うのですが、大阪の淀川に水上バスが走っています。水上バスは、いろいろな外国人が乗り込んできます。この人は、エール学園の韓国人の学生なのですが、ボランティアで韓国語で案内している、テープ起こしをしているところなのですね。彼女は、非常に優秀な子だったので、確か名古屋



大学に進学したのですが、エール学園にいた1年間の間に、このようなボランティア活動もしておりました。

これは、関西国際空港でのボランティアなのですが、うちの留学生たちがおもてなしの一環として、関西国際空港でお手伝いのボランティアをしている写真です。



これは、大阪の浪速区というところにエール学園はあります。浪速区内の難波という地域は非常に外国人が多く、このような落書きをするものですから、落書き消しを留学生にしてくれないかという依頼が区役所からきました。そこで、留学生がボランティアで落書きを消しているところです。



次の写真は、小学校で最近外国人のお子さんが非常に増えてきて、その対応に苦慮されているという話が校長先生からあったものですから、エール学園の学生が教室へ行って、授業の中にも入り込んで通訳支援をしているところです。そのようなボランティア活動をこの子は週1回ですが、1年間続けておりました。



これは、通天閣というところのお祭りなのですが、学生たちがボランティア活動で神輿を担いでいる写真です。これは、区役所からの依頼でした。

これは、韓国の朝鮮通信使という、江戸時代に行われていた歴史的なイベントが毎年開かれているのですが、エール学園の韓国を中心とした留学生がボランティアとしてそのお祭りに参



加をして、このような服装をしているときの写真です。

これは、エール学園で国際交流祭をしているのですが、地域の人と交流をしている活動の写真です。エール学園の学生が地域の人のために料理をふるまって、来てもらっているのです。このように、地域の人と交流をしている写真、受付の写真です。この活動は、25年ぐらい前にやりだしたのですが、そのときは何回来てくださいと言っても、ほとんどの地域の人とは来てくれませんでした。15年ぐらい前から、留学生が地域清掃を定期的にするようになりました。そうすると、地域の方との交流がかなり活発になりまして、このような活動にも積極的に地域の方が参加をしていただけるようになってまいりました。



なりたい自分、つくす自分の実践

エール学園の留学生政策なのですが、ボランティア活動は、エール学園のミッションにある「なりたい自分、つくす自分」という内容の実践です。ボランティア活動で日本人との交流ができ、日本の文化を吸収できるチャンスでもあります。

エール学園の留学生政策

- ボランティア活動はエールのミッションである
《なりたい自分つくす自分》の実践
- ボランティア活動で、日本人との交流があり、
日本文化を吸収するチャンス

留学生の就職率が低い理由

エール学園は、留学生の就職率100%を維持しておりますが、去年だけ97.5%になりました。日本全体では、留学生の就職率が30%を切る水準ですから、エール学園の施策は成果が上がっていると思っています。その理由は、先ほど申し上げましたが、経営者の方が雇用する外国人に対しては、少し引

いてしまうところがあることが、やはり就職率30%をなかなか乗り越えられない理由でもあると思うのです。そのために、エール学園では、就職を前提としない「キャリアアップ型」のインターンシップを実施しています。

就職率が低い理由

- エール学園は100%就職を維持しているが、日本全体では30%切れる水準
- その理由は経営者の方が雇用する時外国人に対して少し引いてしまう
- そのためエールでは就職を前提としないキャリアアップ型のインターンシップを実施

ベトナムの優秀な大学との連携をミャンマーで横展開

ベトナムの優秀な大学との連携をミャンマーでも横展開してくれと依頼されているという話をしました。大阪商工会議所から、ミャンマーの優秀な学生を大阪に連れてきてほしいという依頼を受けました。大阪商工会議所は、ミャンマーにミッションを出して、マンドレー工科大学とタンリン工科大学とエール学園は提携をいたしました。これがそのミャンマーへ行ったときの提携の写真です。ここにいらっしゃる、私のすぐ後ろのこの方が大阪商工会議所の会頭で、大阪ガスの会長さんです。この方が、マンドレー工科大学の学長さんで、こちらの方がタンリン工科大学の学長さんです。

大阪の専門学校に優秀なアセアンの学生を渡日させる

- 専門学校の留学生は4割現地の大学を卒業してきている
- グローバル対応しなければならない時代、留学生雇用が会社をグローバルにする切っ掛けとなる
- 留学生雇用で大阪・関西で生産人口減少を少しでも食い止めて、活性化に寄与してほしい

ベトナムの優秀な大学との連携をミャンマーで横展開

- 大阪商工会議所から依頼を受けて、ミャンマーの優秀な学生を大阪に連れてきてほしいと依頼を受ける
- 大阪商工会議所がミャンマーにミッションを出し、マンドレー工科大学とタンリン工科大学とエール学園との提携ができる

ミャンマー2大学との提携



ミャンマーの学生の進路

それで、今回のミャンマーの学生の進路は、先ほどハノイ貿易大学のときにもお話ししましたように、国際ビジネス学科、デュアルビジネスコース1

年制に入学をします。実質的には、日本語能力試験 N3レベルで日本に来ることを条件にしております。3カ月間で日本で就職するための準備を行って、4カ月目からインターンシップを行い、早い人で半年で就職が決定していくという状況になると想定をしております。

今回のミャンマーの学生進路

- 1 国際ビジネス学科デュアルビジネスコース1年制に入学
- 2 3ヵ月の日本で就職するための準備教育を行う
- 3 4ヵ月からインターンシップを行う。
- 4 早い人で6ヵ月目で就職が決定していく

ミャンマー人の渡日する留学生数

ミャンマー人の渡日する留学生数は、2014年に1,935人でした。2015年が2,755人で、ミャンマーの学生も一気に42.4%増えている状況になっております。日本語教育機関で学ぶミャンマーの留学生数は、2014年で655人、2015年で1,103人となっています。現在、エール学園ではミャンマーの学生さんは、2016年は4人だけ入っております。

ミャンマー人の渡日する留学生数

- 2014年 1935人
- 2015年 2755人(42.4%増となった)

日本の日本語教育機関で学ぶ ミャンマー留学生数

- 2014年 655人
- 2015年 1103人
- 2016年エール学園の日本語学校で学ぶ留学生は4人

ゾー・ミン・ウィンミャンマー連邦商工会議所連盟会頭のご意見

私がミャンマーに行ったときに言われたのですが、ゾー・ミン・ウィンミャンマー連邦商工会議所の会頭さんのご意見では、人材育成については日本とベトナムの教育機関がMOUを提携することを聞いて嬉しく思いますとのことでした。新しい政府も技術者教育に力を入れていくものと思います。

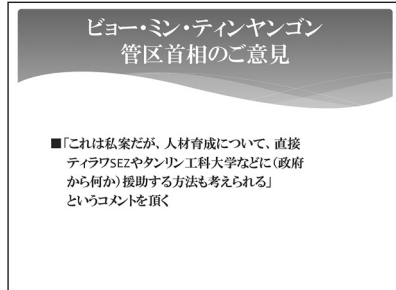
ゾー・ミン・ウィンミャンマー連邦商工会 議所連盟会頭のご意見

- 「人材育成についてMOUを締結されることを聞いて嬉しく思う。新しい政府も技術者教育に入れていくものと思う。その意味で教育してもらえる学校があることは素晴らしい」というコメントを頂く

その意味で教育してもらえらる場があることは素晴らしいというコメントを、そのミッションのときにいただきました。

ビョー・ミン・ティンヤンゴン管区首相のご意見

また、ビョー・ミン・ティンヤンゴン管区首相、要するに州の首相が、これは私見だけでも、人材育成について直接、ティラワ工業団地やタンリン工科大学などに何らかの支援をする方向も考えるというコメントもそのときにいただいています。



大阪商業会議所がミャンマーセミナーを実施

大阪商業会議所がミャンマーセミナーを実施し、私どもがミャンマーへ行ったあとから、このヤンゴンのミャンマーの商工会議所の会頭が来られまして、先ほどのタンリン工科大学の学長さんとマンダレー工科大学の学長さんが日本にやってきて、日本の状況を視察されました。これは、大阪商工会議所の費用で呼んでいただきました。



ティラワ工業団地に進出させるためのミッション

これは、ティラワ工業団地に進出させるためのミッションを、2017年7月



4 日に出すそうであります。大阪商工会議所は中小企業が進出するインフラづくりをするために、このようなミッションを出すことを検討されています。

ミャンマー使節団とエール学園との会合

これが、日本に来られたミャンマー使節団の方々です。

ASEAN との人材育成における連携

ASEAN の人材育成における連携で、ASEAN は親日国が多いために、大阪は優秀な人材を受け入れることができるチャンスであると考えています。エール学園は、優秀な ASEAN の人材を大阪商工会議所と連携して受け入れたいと考えています。このモデルをつくったうえで、オール大阪の産官学を巻き込んだ政策にしていきたいと思います。

アセアンとの人材育成における連携

- アセアンは親日国が多いため、大阪は優秀な人材を渡日させるチャンスと考える
- エール学園は優秀なアセアンの人材を大阪商工会議所と連携して渡日させたいと考えている。
- このモデルをつくった上で、オール大阪の産官学を巻き込んだ施策に仕掛けたい

100%就職を達成するための3種類のインターンシップ

話が飛んでしまったのですが、100%就職を達成するための、3種類のインターンシップを実施しているという話をもう少し詳しくしたかったのです。エール学園では、「採用選考型」、「キャリアアップ型」、「社会貢献型」の三つのインターンシップを実施しているのですが、先ほど「社会貢献型」のインターンシップについてはかなり詳しくお話しさせていただきました。「採用選考型」と「キャリアアップ型」のインターンシップについては、あまり触れていなかったのもので、ここのところをお話ししたいと思います。

「社会貢献型」のインターンシップの効果

実は、この3種類のインターンシップがあるために、エール学園では留学生が100%就職がほぼできているのですね。それはなぜかと言いますと、特に、この「社会貢献型」のインターンシップを通して社会貢献をすると、地域の人たちはかなり心を開いてもらえるのですね。奉仕をすることによって、相手は心を開きます。そのために、エール学園は、我々の地域には留学生ファンが大勢できているという言い方ができるのですね。現在、我々の地域では、

エール学園さんの留学生だったら受け入れようという思いにかなりなったださっています。

ということは、この「社会貢献型」のインターンシップをすることが、留学生を就職させるインフラになっているという言い方も私はできるのではないかと思います。私は現在、難波地域でこのような学校づくりをしています。やはりこの地域の人たちに応援していただける環境づくりは、学校にとって非常に重要なことだと思うのです。ですから、何をするにしても、このような奉仕から入ると、ファンになってくれるなというのが印象です。前にお話ししましたように、25年ぐらい前は外国人は要らないと言われた地域でもありました。先ほど申し上げたように、「社会貢献型」のインターンシップのベースは、地域清掃です。地域清掃をするようになって、一気に皆さん、このエール学園の留学生に対する思いが変わってきたというのが印象なのです。つまり、難波地域は、そういう意味では外国人とその地域の人たちが共生できている地域だと、私は思っているのです。そのため、この「社会貢献型」のインターンシップは、100%就職をするためのインフラになっているというのが、私の印象です。

「キャリアアップ型」インターンシップの効果

「キャリアアップ型」のインターンシップは、先ほど言いましたように、学生さんが就職するとき、企業さんはどちらかというと、「外国人、え、雇うの」と引いているところが未だにあります。ですから、先ほどの30%という留学生の就職率はなかなか難しいのですが、この「キャリアアップ型」のインターンシップをまずします。これは、「留学生をとってください」という意味ではないですよ。「1回、短期で留学生を雇う経験をしてください」ということを、我々は広報に使っていきます。この「キャリアアップ型」のインターンシップは、3カ月ずつが基準なのです。3カ月やると何らかの結果が出てきます。

だいたいインターンシップというと、1日から10日、長くて1カ月が日本では多いようです。ということは、1カ月間は教えることばかりしなければならないません。普通のインターンシップは、付き添いをしなければならないのです。手間ばかりかかると企業側は思っていますので、あまりインターンシップについては良いように言っていただけません。しかし、2カ月ぐらいインターンシップをしたら、その子が戦力になりだすのです。戦力にな

りだすと、今まで留学生は手間ばかりかかるなと思っていたのが、状況が一変するのですね。

それで、この「キャリアアップ型」のインターンシップで起こる例なのですが、あるお茶屋さんで商品開発の会議に学生が出たそうです。その留学生は、台湾人だったのですが、抹茶の話題が出た際のことです。抹茶のため、高いので日本の場合は小さな筒で販売するのですね。しかし、「こんなに小さい筒では母国では買いません、筒を大きくしてください」と商品開発の案が出て、留学生の内容を受け入れたそうです。それで、大きな筒にしましたので、値段も当然高くなります。しかし、実際にそれをしたら、一気に売れ出したそうです。要するに、留学生が、その母国の文化をその商品開発の場にぶつけたわけですね。「そんなこと言っても」と思いながら、その商品開発に対応したらしいのですが、それが思わぬ好成績を生み出したということがありました。

「キャリアアップ型」から「採用選考型」インターンシップへの切り替え

また、南海という大阪の鉄道会社での事例なのですが、ここがパンフレットをつくっていたのです。日本人がパンフレットをつくっていたときに、「こんなパンフレットでは、母国では売れませんよ」と「キャリアアップ型」のインターンシップのときに、インターンシップをしていた留学生が言い、その留学生が「では、私に作らせてください」と言ってパンフレットをつくったのです。留学生がつくったパンフレットを「私が自分で売りたいので、私に行かせてくれませんか」と言って、行ったそうです。その鉄道会社で電車に乗るチケット、ワンデーパスという類のチケットを企画したそうですが、ものすごく売れたそうです。

要するに、その留学生の個性を活かすことが分かってくると、この「キャリアアップ型」インターンシップで2カ月目、3カ月目で、「え、留学生は、こんな側面があるのか」ということが分かってくるのですね。そうすると、3カ月目で留学生がそこに就職したいと思い出します。一方、企業側も「あ、この子だったらいいな」と思います。そうすると、もう一回、3カ月間インターンシップをしたいということになります。そのときに、「『採用選考型』のインターンシップに切り替えてください」と我々の教職員がお願いするのです。それで、次の3カ月で「採用選考型」インターンシップに切り替えて、それで良ければ就職するというケースが現在、エール学園の場合は多くなっ

ているのですね。それが先ほど言った100%に近い就職率を生み出している大きな要因です。

留学生の人間力の売り込み

企業は何を留学生に求めるかというと、日本語力です。「日本語能力試験N1レベルでないと、うちは要りません」と言われます。しかし、エール学園の場合は、この「キャリアアップ型」インターンシップで留学生の人間力を売り込みますので、別にN3レベルでも、人間力が高ければ日本は雇うというところがあります。そのため、エール学園の場合はN3レベルでも就職していています。それは、このインターンシップという制度があるために、このような就職ができるのです。要するに、留学生の日本語力のレベルでとるのではなくて、留学生の人間力を見てもらうことをベースでやっているものですから、他とは全然違う就職率になっているのだと私は思っています。

このように、三つのインターンシップの制度が、エール学園の場合は就職を達成するための施策として生きているものですから、お話をさせていただきました。

それでは、ビデオを見ていただきたいと思います。これは、読売テレビで放映されたものです。

状況をお話しさせていただきますと、先ほど南海電車の事例が話に出てきましたが、ある意味で留学生の就職は、南海の事例がエール学園の特色になっているものですから、皆さんに事例をお話させていただきました。

エール学園の場合は、このように就職に特化している内容ですので、普通の学校とは違う側面があるのですが、私どもにしましたら、何とか留学生が30%の就職率ではなくて、早く80%、90%になってもらいたいと願っています。そうでないと、母国のご両親から本当に困る存在になります。せっかく「高いお金を出して送ったのに」と言われるのは、私としては困るなと思い、当校の学校づくりは、就職を中心とした学校づくりを実施しています。

国際人材活用ネットワーク交流会

それぞれいろいろな考え方があると思うのですが、私が今回お話ししていなかった内容がほかにもあるのです。この就職をするにあたって、「国際人材活用ネットワーク交流会」というものがあるのです。ここでは、留学生と企業、それから官、行政の方々が集まってくるのですが、全部で500人ぐ

らい集まる会になっています。この会を実施することによって、先ほど言った、インターンシップ先がそこで見つけれられるのですね。実は、このようなイベントが、留学生のインターンシップ先を探すイベントになっているのですね。そういうことも、就職に活きている内容だと考えています。ですから、皆さんが就職するためには、いろいろな好条件が整わないと、そこになかなかいかないという側面があります。

ホーチミンでの国際人材活用ネットワーク交流会

今回、たまたま「国際人材活用ネットワーク交流会」を大阪でやっているのを聞きつけたベトナムの大学の先生に、「ホーチミンでしてくれないか」言われまして、2017年の10月21日に、この交流会をホーチミンでする準備をしています。これは、どちらかと言うと、向こうにある日系企業が参加することになります。ホーチミンには、約900社の日系企業がありますので、その方々に交流会に参加していただきます。それから、日本から学生を採用したいという企業さんがありますので、20社ぐらい連れて行く予定です。現地の行政府にお願いして、10社ぐらいの現地の企業もそこに参加してもらいます。今回5大学に行ってきたのですが、5大学の学生さんがその会に参加をして、企業と学生さんが会合う場をホーチミンでつくるという活動を現在しようとしています。

大阪でやっていたものをホーチミンでやるとどうなるかは、私としても不安な面があるのですが、先ほど言ったインターンシップをしていくには、企業と留学生と学校とが交流していく場がないと、なかなか理解が得られませんので、私としては、そのような環境をできるだけいろいろなところにつくっていくということで、今回ホーチミンで交流会をするという状況をつくっています。100人ぐらいの学生さんと100社ぐらいの企業さんと、大学教員がそこに参加していただき、人民委員会という行政もそこへ参加していただきます。それから、商工会、JETRO も参加していただけるようですので、行政も巻き込んだ形でホーチミンでやり、どうなるのか分かりませんが、そのようなことも現在、計画しております。

以上でございます。どうもありがとうございました。

質疑応答

質問1：エール学園は、インターンシップのプログラムに参加する場合、学生さんは授業を休んで公欠扱いという形で、インターンシップが授業に切り替わる形になるのか。

回答1：そこが一番難しいところでして、実は最初、整備しないでインターンシップをしたときに、先生から相当クレームが来まして、こんなことしてもらったら困ると言われました。そこで、年間計画をきちんと立て、週のうちに3日をインターンシップ、企業実習にし、2日を座学と決めてしまったのです。そのような年間計画にすると、クレームがだいぶ減りました。要するに、先生にしたら、授業を抜けられるのは困るわけですので、それで一つは解決したのです。しかし、それは一部のコースですので、全体に広げ

ることはできませんでした。全体に広げるときに、企業実習に行ったあとの留学生が非常にモチベーションが上がっていることに先生が気が付きました。その「授業をしているよりもひょっとしたら、送り出した方が学生は勉強意欲が上がる」と先生方が感じたのです。そうすると、先生方はクレームをつけなくなり出しました。ですから、そこは時間がかかると思うのですが、やはり学生がどう変化するかというのを見せることが、先生方を説得する一番の材料だと振り返って思います。現在は、先生方からのクレームはほとんどなくなりましたので、時間は3年から4年はかかったと思いますが、順調に運営することができています。

質問2：就職について、重要なキーワードとして「人間力」があった。日本人は日本で生きていて、ドメスティックな感覚をもっていると感じるが、その日本人との架け橋になるための「人間力」として、具体的にどのような教育をされているのか。

回答2：エール学園では「メンター制度」をひいています。ですから、「担任」という言葉を使わずに、先生方は「メンター」という言葉を使います。「メンター」という言葉を日本語に訳すと、「支援する人」になるのです。最近では、「メンター」という言葉を聞かれたと思うのですが、この「メンター」をエール学園の理念の一番重要なところに置いているのです。要するに、

「支援することができる人」をエール学園としては、人材育成のキーにしています。

エール学園は、「なりたい自分、つくす自分」を理念の中心に置いているのですね。「なりたい自分」は、自分の夢の実現ということです。「つくす自分」は、相手を支援することによって、成長をするということです。要するに、支援文化をエール学園の中にしっかりと根付かせたいと考えているのですね。ですから、先ほどの授業の一部を止めて地域清掃をしているという事例は、支援することによって、留学生がどのように感じるのか、この行為によってどのように彼ら、彼女らが感じてくれるのかという実感を味わわせているわけです。つまり、「奉仕する、つくす、相手に対してつくす」ことがどのようなことを彼らに感じてほしい、「つくす自分」という理念の実践活動なのですね。ですから、実践することで、彼らに「つくすことはこのような感覚なのだよ」ということを伝えているわけです。

「メンター」という制度は、ヨーロッパで生れて、アメリカへ移って、日本に帰ってきました。日本人がもっている本来のあり様なのですね。ですから、私が「メンター」という言葉を20年前ぐらいに聞いたときに、「これは日本の文化そのもののなにな。なんでアメリカでこんなに普及したのかな」と不思議だったのです。それで、私はこれを日本の文化にリニューアルさせたいと思い、「メンター教育」をしようと考えたのです。それが15年ぐらい前です。これを先ほどのような実践活動を続けることによって、学生に支援の感覚を植え付けていきたいということが、エール学園の理念にあります。先ほどの「社会貢献型」のインターンシップは、いろいろなところから、「奉仕活動をしてください」とさまざまなもち込まれ方をします。それは、留学生にこの理念を感じてもらって、「『つくす自分』の意味はこのようなことなのですよ」というのを理論だけではなく、感覚でもってほしいという願いなのですね。

もう一つ、実は我々は社会人教育として、「メンター教育」を一般の人にもしているのです。「メンター」にはレベルがありまして、資格制度にしているのですが、初級は「アソシエイトメンター」といいます。中級が「エグゼクティブメンター」、上級が「チーフエグゼクティブメンター」という制度にしていまして、職員にこの教育を受けてもらい、「メンター」という考え方を理論としても学習してもらうことを併せてやっています。ただ先ほどから言っているように、理念だけだと行動まで出てこないのですよね。です

から、具体的な実践活動で、奉仕活動の意味を実感してもらうことが大切です。先ほど言った「社会貢献型」のインターンシップを数多く実践している理由がそこにもあります。ですから、講座もやっていますが、どちらかというとなような体験型の、実践型の教育をベースにしていることが、エール学園の特色ではないかと思っています。

この「メンター」という理念は、アメリカの「メンター」とエール学園が現在、実践している「メンター」は少し違いまして、日本的な「メンター」にしているのですね。実は、ハワイ大学の現在は名誉教授の吉川先生という方がこの理論のベースをつくってください、今は、お住まいは神奈川なのですが、大阪に月に1回か2回来ていただいて、「メンター教育」を実践してもらっています。理論と実践を常に合わせながら、この「つくす自分」の教育を浸透させていっているという状況でもございます。

質問3：留学生の就職率がほぼ100%というが、帰国を希望する留学生はいないのか。また、日本で就職した場合に、一生日本で働き続けるということ希望しているのか。それとも、数年、働いたあと自分の国に帰国することを希望する人が多いのか。

回答3：状況が少しずつ変わってきてまして、昔は、日本で就職したいばかりだったのですが、今は現地就職も出てきました。中国は、だいぶ現地就職が出てきています。ベトナムはまだまだなのですが、いずれベトナムも豊かになると、現地就職が出てくると私は踏んでいます。

先日、提携しているホーチミン人文社会科学大学の学生さんを2人送っていただいたのです。彼女たちは現地就職をもうすでに希望していました。ですから、おそらくベトナムが豊かになると、現地就職は、テーマとしてかなり出てくるのではないかと思います。ですから、そのような準備は我々としてもしておかなければならないと思っていますので、今回、ホーチミンで準備するのもそのような背景もあり、現地就職がスムーズになるように、現地企業とのネットワークをつくりたいという意図も、それは将来のために準備しています。

それから、留学生は基本的には国に帰りたいというのが原則になっています。ですから、4～5年日本で就職して現地に帰るのが、我々エール学園の場合、一般的だと思います。しかし、今、状況を見ていると、結構、根付く

人もいますね。エール学園を卒業して、日本で起業、新しい会社をつくった人たちもだいぶ出てきています。4～5年の中には帰りたいというのが基本ですが、おそらく定住する留学生も増えてくるのではないのでしょうかという感触をもっています。

どうもありがとうございました。

はせがわ けいいち
(学校法人エール学園理事長)